

《 VI 研究 》

【教員の研究活動全般について】

(1) 次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去3ケ年（平成17年度～19年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

平成17～19年度専任教員の研究業績								
学科名	氏名	職名	研究業績 注1、注2				国際的活動の有無	社会的活動の有無 注3
			著作	論文数	学会等	その他		
		発表数						
キャリアデザイン学科	武田 康雄	教授	0	0	0	0	無	有
	井上 邦雄	教授	0	0	0	0	無	有
	柿内 正徳	教授	0	0	0	0	無	無
	金山 昌浩	教授	2	0	0	0	無	無
	代田 義勝	教授	0	1	0	0	無	有
	久田 俊夫	教授	0	12	0	0	有	有
	高田 豊實	教授	0	1	0	1	無	有
	中村 豊 *1	教授	0	3	0	1	無	有
	水野 晃	教授	0	1	0	0	無	有
	渡辺 道斉	教授	0	1	0	0	無	有
	江本 哲也 *2	准教授	0	0	0	0	無	無
	城内 利夫 *3	准教授	0	0	0	0	無	無
	吾妻 民子	准教授	0	0	0	0	無	有
	進藤 鈴子	准教授	1	0	2	1	無	無
	後藤 基	准教授	2	5	1	2	有	有
	角谷 新一	准教授	0	0	0	0	無	有
	日比野 光敏	准教授	2	5	1	3	有	有
	前田 アンドレア	准教授	0	5	4	0	有	有
	水口 美知子	准教授	4	2	1	0	無	有
	光松佐和子	准教授	0	1	0	0	有	有
酒巻 智子	准教授	0	0	0	0	無	無	
末岡 仁	講師	0	0	0	0	無	有	
保育学科	船井 廣則	教授	1	3	1	2	有	有
	植田 克己	教授	0	0	0	0	無	有
	忠津 玉枝	教授	1	0	0	0	無	無
	中西齋之助	教授	0	0	22	3	無	有
	中井 良宏	教授	2	0	0	0	無	無
	家接 哲次	准教授	0	2	1	1	有	有
	関谷 みのぶ	准教授	5	1	0	0	無	有
	寺田 泰人	准教授	3	2	1	0	無	有
	市毛 愛子	講師	1	0	2	0	無	有
星野 名生規	講師	4	4	0	4	有	有	

*1 平成19年6月26日死亡退職

*2 平成19年8月31日依願退職

*3 平成18年3月31日依願退職

注1：著作・論文・学会発表は、共著、共同発表を含む。

注2：研究業績のうち、「その他」は研究ノート・資料・公演・個展などである。

注3：社会的活動は、講演・講師・団体活動などである。

教員の研究業績数と業績内容の詳細は表の通りである。過去3年間の一人当たり著作・論文数は平均2.35編、学会等での発表回数は1.16回、その他に関するものは0.5点となっている。国際活動については有のものが8名で全体の25%にのぼり、また社会的活動の有無については有のものが24名で全体の66%に達している。この数字にも示されているように、教員の社会的活動は活発に行われているが一般的に業績の偏りは否めない。

とくにキャリアデザイン学科は新しい研究教育分野であり、多くの未開拓の領域に対する手探りの試行が行われているのが現状である。研究内容のいっそうの充実と深化が求められるところである。

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

本学での研究活動は、基本的に「名古屋経済大学学術研究センター」を中心に助成・支援体制がとられている。各教員は基本的に、現在では7つの専門分野わたる研究会の何れかに所属し論文・論説その他の研究業績はそれぞれの機関紙・紀要に掲載・発表の機会が与えられている。

各紀要に掲載された研究業績は、年1回定期的に発行される『学術センター通信』によって公表されている。また名古屋経済大学、同学術センター主催の犬山オープンカレッジ及び小牧市による「市民大学講座」の内容についても『同センター通信』に掲載され活動状況が公開されている。なお、『学術センター通信』は名古屋経済大学のウェブサイトに掲載されている。

また芸術関連の分野での個展やコンサートは随時その成果が公開されている。

各研究会とその紀要は以下の7分野のものである。

- | | |
|------------|-------------|
| 1) 経済経営研究会 | 『経済経営論集』 |
| 2) 人文科学研究会 | 『人文科学論集』 |
| 3) 法学会 | 『名経法学』 |
| 4) 自然科学研究会 | 『自然科学研究会会誌』 |
| 5) 幼児教育研究会 | 『幼児教育研究紀要』 |
| 6) 比較文化研究会 | 『比較文化研究』 |
| 7) 地域社会研究会 | 『地域社会』 |

(3) 過去3ヶ年（平成17年度～19年度）の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況（件数）を一覧表にして下さい。

外部研究資金の申請・採択等の状況（平成17年度～平成19年度）

（単位：件）

外部資金調達先等	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究費補助金	1	0	1	0	0	0

その他の外部研究資金	0	0	0	0	0	0
------------	---	---	---	---	---	---

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、当該短期大学もしくは当該学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

[保育科]

保育科では、日ごろの教育研究活動に加え、地元、犬山市や小牧市を中心とする近隣の幼稚園・保育園との交流・連携を一層深めていくために、各種の出張授業や講演会、相談・懇談会といった学外活動にも積極的に取り組んでいるところである。保育科の教育研究活動は、併設の人間生活科学部幼児保育学科と協働して行われている。幼児教育研究会はその基盤となっている。

[キャリアデザイン学科]

キャリアデザイン学科では、平成 21 年度より名古屋駅前キャンパスへの移転が予定されており、それにとまなう大幅なカリキュラムの見直しを行っている。とくに新しい立地環境条件を視野に入れた取組みの一つとして、ワークショップ型ゼミナールを中心とした教育プログラムが平成 19 年度、文科省の「現代 GP」に選定された。現在、キャリア形成に重要な総合力とくに社会人基礎力の育成に焦点を当てた、この未開の分野に挑む多様な研究が意欲的・積極的に行われている。とりわけ社会人基礎力の評価ツールの開発はこのプログラムの成果を測定する上で重要であり、これについては外部シンクタンクと共同研究を行っている。

【研究のための条件について】

(1) 研究費(研究旅費を含む)についての支絵規程等(年間の支出限度額等が記載されているもの)を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去 3 ヶ年(平成 17 年度～19 年度)の決算書から研究に係る経費を項目(研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等)ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

1. 個人研究費

個人研究費は、「名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部専任教員研究費規程」に基づき、本学の専任教員に対し、1 名につき年額 50 万円を支給している。研究費は 5 年間の繰越が認められており、研究者の長期的な研究計画にも対応可能としている。

過去 3 ヶ年の個人研究費の使用状況は、下表のとおりである。

区分	研究費予算額 (円)	執行状況		
		物件費 (円)	旅費 (円)	総額 (円)
平成17年度	23,266,254	11,948,811	1,972,670	13,921,481
平成18年度	25,327,953	11,748,885	2,037,986	13,786,871
平成19年度	27,899,504	17,620,841	2,442,516	20,063,357

2. 研究助成費及び刊行助成費

「名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部研究助成費及び刊行助成費に関する規程」に基づき、学内の研究活動を促進し、学術及び教育の水準を向上させることを目的として、研究助成費・刊行助成費を支給している。

過去3ヶ年の実績は、下表のとおりである。

区分	申請件数	採択件数	総額 (円)
平成17年度	0	0	0
平成18年度	0	0	0
平成19年度	1	1	400,000

3. 在外研究及び国内研究

「名古屋経済大学大学院・名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部 専任教員在外研究及び国内研究に関する内規」に基づき1年を限度として、給与・手当の全額支給に加え、支度金、渡航旅費を支給することとし、研究者の研究活動専念を可能としている。

過去3ヶ年の実績は、下表のとおりである。

区分	件数	氏名	行先	金額 (円)	総額 (円)
平成17年度					
平成18年度	1	後藤 基	中華人民共和国	2,320,121	2,320,121
平成19年度					

*上表金額は、支度金・渡航旅費及び研究費であり、給与・手当を含まない。

(2) 教員の研究成果を発表する機会(学内発表、研究紀要・論文集の発行等)の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

本学の教員は名古屋経済大学学術研究センター傘下の7つの研究会のいずれかまたは複数の組織に加入している。各研究会はそれぞれ研究発表会を開催するとともに、毎年定期的に紀要を発行し手いる。

7つの研究会が過去3ヶ年に発行した紀要は以下の通りである。

1. 経済経営研究会『経済経営論集』

第13巻第1号(2005年12月)、第14巻第1号(2006年9月)、
第14巻第2号(2007年3月)、第15巻第1号(2007年9月)

2. 法学会『名経法学』

第19号(2005年10月)、第20号(2006年3月)、第21号(2007年1月)、
第22号(2007年3月)、第23号(2007年11月)、第24号(2008年3月)

3. 人文科学研究会『人文科学論集』

第76号(2005年6月)、第77号(2006年1月)、第78号(2006年7月)、
第79号(2007年3月)、第80号(2007年7月)、第81号(2008年3月)

4. 自然科学研究会『自然科学研究会会誌』
第40巻第1号(2005年10月)、第40巻第2号(2006年3月)、
第41巻第1号(2006年12月)、第41巻第2号(2007年3月)、
第42巻第1号(2008年3月)
5. 地域社会研究会『地域社会』
No.53(2005年11月)、No.54(2006年3月)、No.55(2006年10月)、No.56(2007年2月)、
No.57(2007年9月)、No.58(2008年3月)
6. 比較文化研究会『比較文化研究』
Vol.25(2006年3月)、Vol.26(2007年3月)、Vol.27(2008年3月)
7. 幼児教育研究会『幼児教育研究紀要』
第18号(2006年3月)、第19号(2007年3月)

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成19年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

平成19年度の教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況は以下のとおりである。
なお、下記の金額には上で述べた特別研究助成費40万円が含まれる。

平成19年度の研究関連の予算および決算

	予算額	決算額
教育研究用機器備品支出	13,000,000円	9,746,189円
図書支出	7,900,000円	7,883,480円

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

平成20年5月1日現在、本学の専任教員数は28名である。これらの教員すべてに個人研究室が提供されている。

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

本学の専任教員サービス内規(平成10年4月1日制定)により専任教員には、週1日の研究日が確保されている。実際、多くの教員は授業のない曜日を研修日としていることが多い。最近、学内の諸会議等が不定期に開催されることがあるため、研修日が流動的になることがある。

また、長期休業中（夏季、冬季、春季）や後期末（後期考査終了後）は、まとまった期間を研修日に充てることが多い。

しかし、その一方で最近校務が多くなり該当校務が、研究日に食い込んでしまうことや、学外へ実習巡回指導を行うことから多忙な教員が多くなった。授業、校務、研究と、仕事ができる教員とそうでない教員とのバランスをどうとるかが今後の課題である。

【特記事項について】

(1)この《VI 研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

1. 「教育・研究についての報告書」の提出

平成 20 年度より、大学・短大の教員はすべて「教育・研究についての報告書」を提出することとなった。これは、教育・研究・社会活動についての年次計画と実績を報告するものである。

2. 科学研究費取得の奨励

名古屋経済大学と短期大学部との共催で科学研究費補助金申請説明会を開催した。

これには文部科学省より講師を招いて説明を受けた。開催日は以下のとおりである。

平成 18 年度 8 月 2 日、10 月 6 日

平成 19 年度 7 月 13 日

3. 学内補助制度

「名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部研究助成費及び刊行助成費に関する規程」に基づき、学内の研究活動を促進し、学術及び教育の水準を向上させることを目的として、研究助成費・刊行助成費を支給している。（既述）

4. 国外ならびに内地留学制度

「名古屋経済大学大学院・名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部 専任教員在外研及び国内研究に関する内規」に基づき 1 年を限度として、給与・手当の全額支給に加え、支金、渡航旅費を支給することとし、研究者の研究活動専念を可能としている。（既述）

(2)特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

とくになし。